

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大東グループホーム
(ユニット名)	あじさい
所在地 (県・市町村名)	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1
記入者名 (管理者)	佐竹 沙世
記入日	平成20年7月14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間性を尊重し、施設に関わる全ての人たちの心を豊かにするような施設づくりを目指し、事業目標を見やすいところに掲げ、周知徹底を図っている。地域密着型サービスを目指している。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業目標が現実になるように努力し、自己にて目標の達成度はどうか評価し自己啓発に努めている。ケアを振り返り日々繰り返し話し合いを心がけ、個々のできる能力を引き出し望んでいる。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約書や重要事項説明書で、家族や利用者に説明している。又、面会時等等でも、分かりやすく丁寧にくり返し説明し理解を求めている。見学の方には、それぞれ丁寧に説明し、家庭と同じように生活して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	カルチャーホールを開放し、自治会の行事やサロン、ボランティアに利用してもらっている。こちらから必ず挨拶をし、明るい雰囲気作りをしている。利用者、家族はもちろん、来訪者、地域の方も気軽に訪ねられるよう努めている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや餅つき大会等、地域の方が大勢参加していただいている。町内行事の清掃活動や町民運動会、地域の役員の方と共に防災の意識の向上に向けて消火栓の確認に同行している。尚、子供110番の相談窓口も担い、より一層地域住民としての関わりを深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に介護予防教室を開催したり地域の方々の見学の受け入れをしている。老人会(いきいきサロン等)にも協力し、常日頃から高齢者の生活について相互理解を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価等の結果をふまえ、玄関に掲示して公表している。相互の連帯を密にし、日々改善できるよう努めている。現状の維持、更なる充実ができるよう、職員が一丸となり取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行っている。地域からの活発な意見をもらったり、施設内外で問題視されている事柄を、お互いがよく理解できるように話し合っている。事業所の理解者を増やす努力をしている。		家族の代表者だけでなく、他の家族も参加できるよう家族会の発足に向けて夏祭り後にアンケートをとったりし、要望を出しやすくする体勢を心掛けている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連携を密に取っている。広報では在宅介護支援センターが中心となり、介護予防教室を開き、医師の講演などへの参加も呼びかけている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日頃から、地域包括支援センターの連絡会等に参加し、必要な方には直ちに制度の利用ができるような支援をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等で勉強会をし、話し合い理解を深めている。職員同士声を掛け合い協力をいつでもできる体制をつくり、ストレスを溜めないようにこれからも努めたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時前後の説明を十分に行い家族と関わりを持ち、疑問点、不明な点が明らかにできるようにしている。十分な説明の上、お互いが理解を得られるよう、話し合いの機会を多く持つように努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>所長、リーダー、職員間で検討し、改善がみられない時や厳しい問題については、上司に報告、連絡、相談を徹底している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の広報「なないろ」の発行や、担当制をとり毎月お便りという形で情報提供している。また、アルバムをつくり生活の状況が家族に分かるようになっていく。面会時も毎回最近の状況等を伝える努力をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や要望を、所長、リーダー、職員間で検討している。改善がみられないときには時には、再検討している。意見箱を設置し、要望等話し合うようにしている。苦情には即時対応できるよう努力している。また、意見は傾聴するという意識を大切にしている。家族会の発足に向け、徐々に取り組む姿勢である。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の全体会議やグループホーム会議、ケース会議で提案のある時は改善できる点において話し合っている。改善点や検討項目に対しては、提案書を作成したりリーダー会議等で意見を出し合い、上司への報告、連絡、相談を大切にしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト調整をし、できる限り柔軟に対応できるよう努力している。行事等は勤務時間帯を変更している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>4月と10月は定期異動があるが、移動は最小限に抑える努力をしている。移動の際には、利用者や家族に可能な限り報告し、不安にならないように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会や委員会の学習会を開催している。研修については、発表の場を設け今後の生活ケアに生かせる事は実践できるよう努力している。又、資格取得希望者にはできるだけ配慮している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修に参加し、他事業所の意見を聞く機会を持ち、サービスの向上につなげている。又、カルチャーホールを会場に利用していただく等して関わる機会を増やしている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	歓迎会、忘年会、慰安旅行等、日々の業務から離れて職員同士親睦を深められるようにしている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各委員会を中心に、定期的に勉強会を開催している。日常的に学ぶことを心掛け、資格習得達成に日々努力している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聞き取り調査や面談時、その方の生き様や意見を十分に聞き取り、今後もその生活を維持できるよう理解している。生き様を知る努力を重ねている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前後の説明を十分に行い、面談時に家族の意見を十分に聞き、不明な点が理解できるように努めている。特に入所より日の浅い方には、頻回に話し合いを持っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅介護センターと連絡し、また、現在までに関わってこられた介護支援専門員と連絡を密に行い、随時対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本体施設と協力し、入所前に見学に来て頂いたり行事に参加して頂くなど、雰囲気を解ってもらえるようにしている。家族にも可能な限り面会や外泊の協力を依頼し安心して生活が送れるように努めている。利用者が馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を理解する努力をし、お互いの信頼関係を構築している。行事を一緒に行う中で、昔のやり方や知識を教えていただき支えあいながら生活している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスで話し合いの場を持ち相談しながら一つひとつ解決できる場所はして行き、利用者が安心してよい生活が送れるか一緒に考えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事のお知らせを前もって行い、一緒に参加していただいたり、毎月のお便りを通して利用者の様子を伝え、家族にも楽しんでいただけるよう努力している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を仰ぎ、外泊や外出をしてもらえるよう依頼している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に生活する中で、職員が間に入り、コミュニケーションが取れるよう支援している。職員は黒子として、穏やかに支援するよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所に至るまでのかかわりの中で、話し合いを持ち、医療機関とも連携を取っている。その時の、一番いい方法を見つけ、納得して退所していただいている。退所後の関わりを必要とされる家族には、相談にのり付き合いを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを使いやすいように改善し、アセスメントに積極的に取り組んでいる。今まで使用されていたものや、寝具で落ち着いた雰囲気与生活して頂けるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り調査や、面談で情報収集している。入所後も会話の中で得た事柄を家族に確認するなど、把握に努め交流を深める努力をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方にあった生活をしていただけるよう、できることは行っていただき、できないところのみ支援するよう、日々目配り、気配りに努めている。見守ることの大切さを理解し、口を出さない、手を出さない、目は離さないの関わりを持てるよう、心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族に要望や、希望、不明な点を聞いておき、カンファレンスに参加していただいている。お互いに十分に話し合いながら、作成し同意を取っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	レベル低下や、入退院後には随時見直しをしている。カンファレンス、ケース会議で話し合い、現状に合ったが支援をしている。日々家族の意見の把握、計画の見直し、又、継続、終了、修正を行い方向性を話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を記入を詳細に行っている。変化や変更があれば、日報や連絡ノートを活用し共通ケアができるよう有に心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	気分転換の必要なときなど、本体施設の行事に参加している。家族や利用者の希望や状況を判断しながら、本体施設の利用の紹介につなげたり柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	書道や紙芝居のボランティアの方の協力を頂いている。近所のスーパーや、飲食店を活用することの協力を得ている。外出時や行事等、家庭的な味わいが出せるようにしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所時等には、必要に応じて他のサービス利用が出来る支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連帯は常にしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に主治医を持ち家族の協力の下、受診、往診を受けている。かかりつけ医と常勤の看護婦が連携を取り合ったり、時に、受診に同行するなど、必要な情報提供を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談し連携を取っている。本体施設の看護師や嘱託医とも密に連携が保たれている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師と日々変化に注意している。嘱託医や緊急時には大垣市民病院と連携を深めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の退院に向け働きかけている。看護師や病院と相談を密に行っている。退院後の生活についてもよく話し合いをし納得できるまで話し合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、利用者、主治医と何度も話し合いを持ち、全員で方針を共有して支援している。一人ひとり今後どのように最期を送るのか、納得いくまで話し合いながら、職員一丸となって取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常から、利用者、家族の思いを知る努力をしている。今後どうして行くか家族、主治医とも話している。その人らしい終末期を考慮している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	センター方式シートによる伝達を充分にし、情報交換に努めている。よりよい生活が送れるように、日頃から話し合いを充分に持ち、情報の共有に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>事業目標にもある、利用者が不快を生じる言動は決してしないという心がけ常に持ち接している。危険回避を理由にトイレの戸を少し開けたりしてしまっている部分もあるため、お互いに声を掛け合いながら、事故のないよう協力している。ひとり一人トイレの声かけの方法も異なるので、よく把握しながら対応している。</p>	<p>充分認識しているつもりだが、より一層自己啓発と共に、学習する必要がある。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>同じ目線で話をし、分かりやすい声掛けを行い利用者が自己選択できるように、心掛けている。できてもできなくてもその時に応じた声をかけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日中では困難であるが、自分のペースで生活できるよう、その人らしさや、希望、意思を大切にしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>全員の個別化は無理だが、家族の協力が得られるときは、馴染みの美容室を利用している方もみえる。時計、ネックレス、指輪をはめている方もみえ、ひとり一人支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しさや、彩を考えつつ盛り付けをし、食器洗い、食器拭き、準備等分担して手伝っていただいている。食事を楽しむことができるよう、職員は同席し、味付けの確認をしながら、雑談しながら食事をしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>昔からある、四季折々の行事食を取り入れ提供している。基本的に施設内でのタバコは遠慮していただいているが、お酒は嗜好に合わせて支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握をし、個々に対応している。プライドを傷つけないよう、なるべくオムツを使わない努力をいつもしている。個別に対応し、下着、オムツ、尿器の使用等昼夜の使い分けをし、その方にあった方法を模索し努力している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員の希望は困難だが、時間、回数等選択の幅を広げる努力をしている。入浴中の会話を心掛けている。その日のバイタルチェック、表情、動作、前日の様子を見て、毎回看護師と相談し入浴を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の行事参加や散歩等を行い、生活のリズムを改善している。十分な睡眠がとれるよう、必要以上のトイレ誘導を行わず、安眠できるよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分から進んで居室内のことをされるようになってきている。四季折々の行事を一緒に行い、利用者のできることを見極め、家事や居室の片付け等、危険がないか見守りながら協力していただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員の財布があり、事務所で管理している。毎日の食材等一緒に買い物に行き、金銭管理のできる利用者にはレジで清算できるよう、買い物を楽しめる支援をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、散歩やテラスでのおやつ、地域行事への参加をし、色々な機会を提供できるように努めている。季節の花を見に外出の機会を多くし、気分転換できるように努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたいところの情報を集めたり、四季折々の情報を集め、外出を多く取り入れる努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所や共用ホールにて、電話がいつもかけられるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設行事等、参加を促したり、お便りや電話で伝える努力をしている。気軽に訪問していただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分に周知している。拘束をしなくても充分できているため、現在行っていない。今後みえても、拘束しない方法を家族と考えたい。身体拘束廃止推進委員会を中心にフィジカルロックについては、実際身を持って拘束体験実施中であり、スピーチロックについては、職員同士声を掛け合いストレスを溜めないように心掛けている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの玄関は施錠されておらず、自由に行動できている。正面玄関の自動ドアは手動開閉となっているが、きちんと説明をし事務員が気配りをしている。		窓は転落防止の為、開閉制限を加えたいが、業者と相談し現在方法を考えている。気分転換を兼ねて、できる限り外へ連れ出している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	早期発見予防ができるよう、利用者の所在確認をし、事故のないよう全職員で見守り安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	タンクの洗剤や包丁、ハサミなど、手の届かない所や倉庫に保管している。夜間は施錠し危険なものに対する配慮を徹底している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ひやりはっと報告書にておきた時やおきそうだった時、速やかに報告、連絡、相談を密に行っている。職員側のミスでおこった事についてはグループホーム会議等で再発防止に関して徹底するように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	サービス向上委員会を中心に緊急時のマニュアルを作り、勉強会を開き対策強化中である。疑問などはその日の内に解決しようとしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理委員会を中心に本体施設と共に、年2回の訓練を行い、利用者が安全に避難できる方法を日々考えている。		備蓄の確認、非常食、スプリンクラーについては、現在検討中である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話で職員が、家族へその都度連絡し対応策を話し合っている。事故・ひやりはっと報告書を元に、安心して暮らせるようにケアプランに反映している。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、看護師と協力し異常の早期発見に努めている。家族にも集団でおきる感染症については、協力を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にどのような薬を服薬されているか、把握に努めるようにしている。処方箋で確認できるよう、カルテに挟んでいる。又、変更が分かるように申し送り確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスよく食事を採っていただき、散歩、軽い体操し身体を動かしている。食物繊維強化食品を提供し、便秘予防に心掛けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけ支援にて気を配っている。うがい薬などを使用し、口臭など生じないよう支援している。また、舌苔が気になる方には、ハミングットや舌苔用ブラシを使用している。疲がらみの多い方には、食前食後、おやつ前後の口腔ケアに力を入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月分のカロリー計算された献立をもとに、主食と汁物はそれぞれのユニットの手作りとなっている。利用者ひとり一人の状態に合わせ調理し、キザミ食や一口大食を提供している。利用者の日々の変化、気付きにも注意している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日々の手洗いうがいは当然であり、徹底している。感染症に対し知識を持ち、対策を取り日々実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内、食品の保管は常にチェックしている。食材の賞味期限の確認も徹底し、新鮮な食材を提供している。食器、まな板等の除菌は定期的に行っている。月1回の給食委員会を開き、活発な意見交換をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に訪ねられる雰囲気になっている。四季折々の花を利用者と一緒に行き、共に植え途切れることなく咲いている。天気の良い日は利用者と共に、水やりをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きくみやすいトイレ表示や、暖簾を使用している。朝日や夕日小動物の声等自然の恵みを充分取り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが広く、利用者が思いのままのんびり過ごすことができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、利用者が使い慣れたものを使用したり、タンスや椅子などを持参していただき、落ち着いた居心地のよい生活空間になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	細めな換気に気を配っている。室温計や扇風機を使用したり、冬季には、インフルエンザや風邪予防を兼ね、加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レベルが低下しても使用できる設備あり、生活をしながら利用者の自立した安全な生活を日々考え努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者ができることを行っていただくことはもちろん、できないことも職員が声をかけ、一緒に行い自信をつけていただき自立して暮らせるように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	幼保園や小学校が周辺にあり、幼児、学童、近隣の方とのコミュニケーションの場として利用している。天気の良い日にはばパラソルを使用し、外に出て食べられるような場所作りを提供している。畑では、野菜が収穫でき喜びを感じている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者を安全にお世話できるよう、他職種が協力して生活を守っています。利用者、家族、職員間の意見交換を行い信頼関係の構築が一番だと考えています。認知症が徐々に進んだり、身体的にレベルが落ちたりしていますが、毎月の外出や外食を楽しみにされている利用者が多く、写真からも多くの笑顔が見られています。面会の方から、”顔つきがよくなったね。” ”元気がいいね”と認めていただけることで、職員の自信と励みにつながっています。